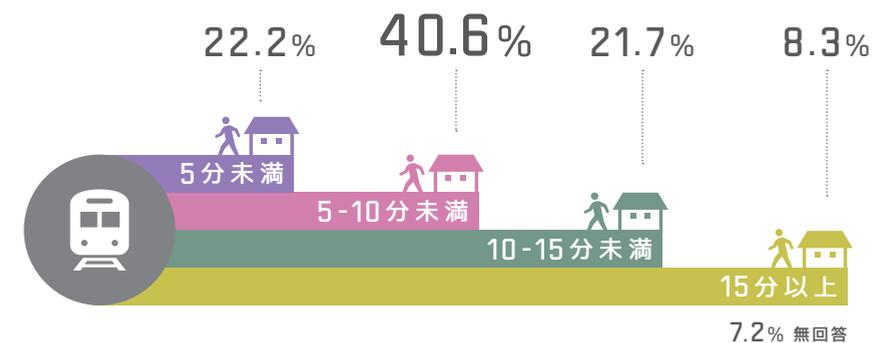
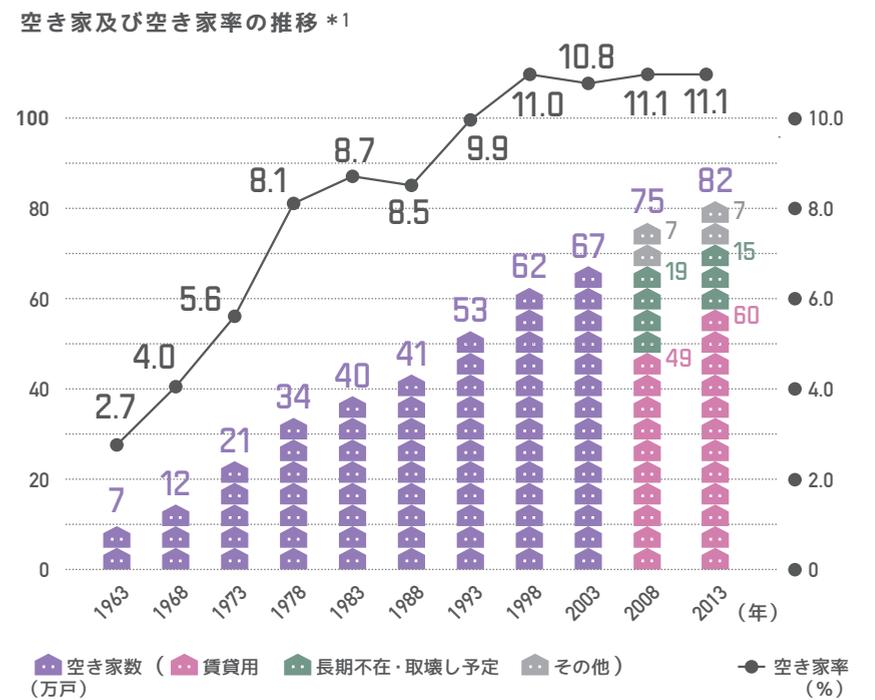


EFFECTIVE USE OF HOUSING STOCK

東京に眠る貴重なストック

東京の空き家は増加傾向にあり、
 今後は更に増加していくと予想されます。
 良質な空き家などの既存ストックをいかし、
 地域の活力や豊かなコミュニティを
 生み出していく必要があります。



出典：*1 総務省「平成25年住宅・土地統計調査」 *2 国土交通省「平成21年度空家実態調査」

既存ストックを活用した取組事例

シェア型複合施設「THE SHARE」(渋谷区)

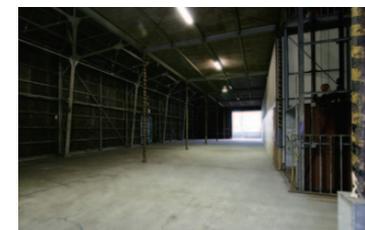


BEFORE 企業の独身寮



AFTER シェア型複合施設 (店舗・オフィス・住宅)

THE NATURAL SHOE STORE 東京オフィス(中央区)、設計:Open A



BEFORE 倉庫



AFTER オフィス

良質な空き家を活用し地域の人が集える場所に(大田区)



提供：[シェア型複合施設「THE SHARE」(渋谷区)]株式会社リビタ [THE NATURAL SHOE STORE 東京オフィス(中央区)]Open A

COMMENT >> RYO YAMAZAKI

山崎亮 東北芸術工科大学デザイン工学部教授

地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインを手がけ、まちづくりのワークショップや様々なプロジェクトに参加。studio-L代表。博士(工学)

地域住民同士の緩やかな結びつきを育てること

まちづくりへの市民参加において、東京は先駆的な都市であったことを御存じでしょうか。1970年代には地元のまちづくりセンターが中心となって、市民主体の様々なプログラムが立ち上がり、実行されてきたのです。近年、私は市民参加で作られた施設に様々な人たちが集うことで生まれる「緩やかな結びつき」に注目しています。これは、家族や職場とは異なる、地域住民同士で生まれる弱いつながりではあるものの、老人の孤独死や子供を巻き込んだ犯罪を事前に防いだり、行政が見つけにくい問題を解決できたりする可能性があると考えています。こうした人的なインフラネットワークを生み出す場、そして人と人との結びつきを後押しするコーディネーター的な人材を育てていくことが、これからのまちづくりには必要であると考えます。



立川市子ども未来センター

市役所旧庁舎を子どもたちが集まる施設に改修し、にぎわいのある拠点に。